

「金夢島 L' ÎLE D' OR」 (仮題)

京都賞受賞 アリアーヌ・ムヌーシュキン率いる

伝説の劇団「太陽劇団」(フランス パリ)

【東京公演】 2021年 10月18日～27日 池袋芸術劇場

【京都公演】 2021年 11月6日、7日 京都ロームシアター

「創設57年目を迎えるフランスの太陽劇団は、歴史と政治を主題とした国際的評価の高い傑作を生み出し続けている世界有数の伝説的劇団のひとつです。

古今東西の伝統芸能を参照することで舞台表現を革新し続けています。太陽劇団の作品には、演出家であるアリアーヌ・ムヌーシュキンが若き日に心酔したという日本の能や歌舞伎、文楽の影響が垣間見えます。

本作「金夢島 L' ÎLE D' OR」も、2019年京都賞受賞者ムヌーシュキンさんが滞在



中の交流やリサーチを通して着想を得たもので、コロナ禍の中でも日本の能楽師や演劇関係者とのワークショップが行われてきました。

20年ぶりの日本公演、そして初めてとなる関西での公演にぜひご注目ください。」

—演劇紹介文より—

ご縁あって、大島衣恵が能の舞と謡の指導をさせて頂いています！！

コロナ禍ですので現在は、リモートでの指導が続いています。

太陽劇団 Théâtre du Soleil

1964年にフランスで旗揚げされた太陽劇団は、パリ郊外の「カルトウーシュリ」(弾薬庫跡)を拠点にスペクタクルな演劇作品を創作し、世界中で上演活動を行っている。ヒエラルキーを排した独特の劇団運営、集団創作の方法論を持つことでも知られている。2001年に初来日し、『堤防の上の鼓手』(新国立劇場)を上演。文楽のエッセンスを大胆に取り入れた作品が大きな話題を呼んだ。

アリアーヌ・ムヌーシュキン Ariane Mnouchkine

演出家。1939年パリ生まれ。イギリスで心理学を学ぶ中、オールド・ヴィック座でシェイクスピア劇に触れ演劇の道に入る。フランスに帰国後、ジャック・ルコック国際演劇学校に学び、ソルボンヌの古代劇研究会に所属する。ギリシャ劇の上演に女性の活躍する場が無かったことから、1960年に演劇集団 A.T.E.P. (Association Théâtrale des Étudiants de Paris) (パリ学生演劇協会) を結成。1962年に A.T.E.P. を解散し、日本やカンボジアを巡り現地の演劇表現を学ぶ。1964年に A.T.E.P. のメンバーを中心に太陽劇団を設立。以後半世紀以上に渡り、演出家として活躍。その功績が評価され、2019年に京都賞(思想・芸術部門)を受賞した。